

令和4年度 学校評価アンケート(7月実施)の結果

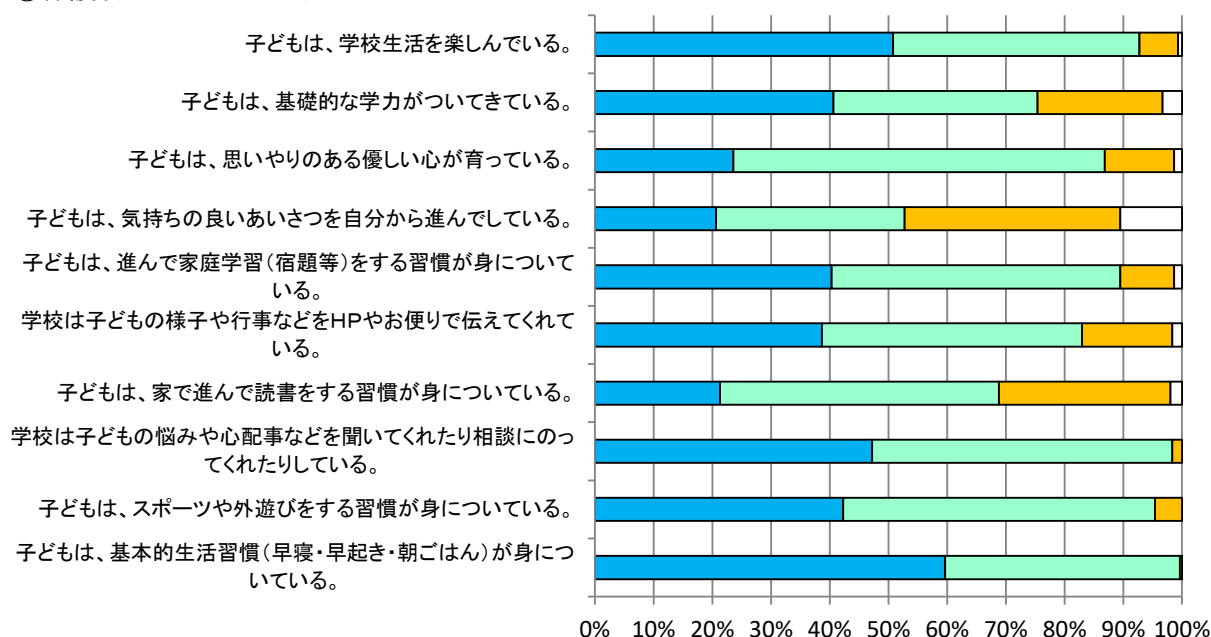
初秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。平素は本校教育にご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、7月に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。アンケートは保護者、児童から調査を行い、グラフに表しました。今回はインターネットを活用してアンケートを実施した結果、305名の回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

グラフは左から「よくできている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」で、保護者アンケートはいちばん右に「わからない」を表示しています。

アンケート結果を今後の学校運営に活かしていくよう、努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

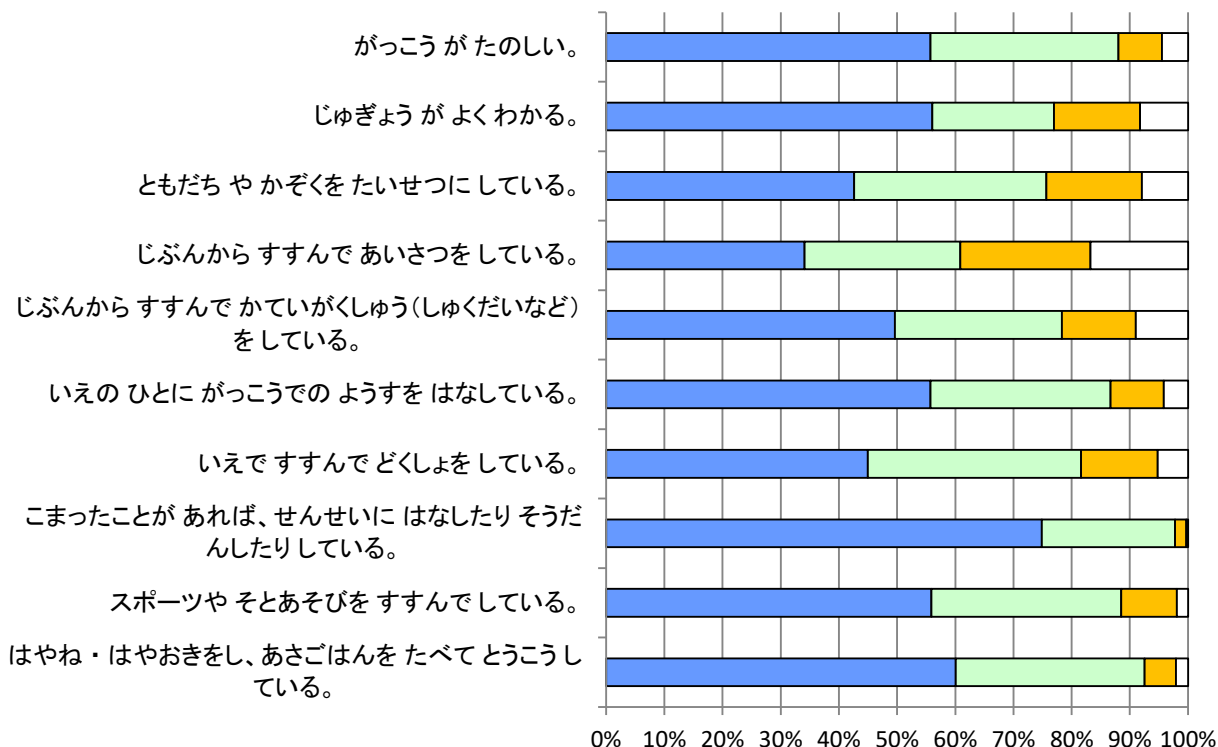
①保護者のアンケートより



保護者アンケートの結果の中でプラス評価(「そう思う」と「大体そう思う」)が低かったのは、「子どもは進んで読書をする習慣が身に付いている」で、52.8%でした。この項目については、前回の12月の調査の際よりも3.9%減少しています。昨年度までは少しずつ数値が上昇していましたが、今回は大きく減少する結果となりました。本校の重点的な取組である「すすんで読書をしよう」が、学校からの発信が十分にできておらず、十分に家庭の中まで定着していない状況があることがわかります。今後の取組の中で改善できるようにと考えています。ただし、学校の中では子どもたちが読書を楽しむ姿は定着しています。学校図書館での図書の貸出数も高く、朝読書の習慣も身に付いています。ご家庭でもぜひお子様と一緒に読書をする時間をとってみてください。また、「子どもはスポーツや外遊びをする習慣が身に付いている」では、前回の調査よりも7.6%もプラス評価が増えています。コロナ禍で十分にできなかった外遊びも、少しずつできるようになってきているようです。さらに、「子どもは、基本的生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が身に付いている」では、前回よりも4.4%プラス評価が増え、92.8%になりました。家庭で子どもたちをしっかりと支えていただき、学習に向かう準備をしていただいていることが、この結果につながっています。今後とも、子どもたちの生活を支えていただきますようお願いいたします。また、「子どもは、進んで家庭学習(宿題等)をする習慣が身に付いている」では83.0%のプラス評価をしていただきました。家庭でしっかりと学習をする習慣を身につけていただいていることがわかります。今後ともご家庭のご協力をいただきながら、子どもたちの学習の力を高めていきます。「子どもは、気持ちの良いあいさつを自分から進んでしている」の項目では、前回よりもさらにプラス評価が0.8%減少しています。学校内でも自分からあいさつができる児童を増やしていけるよう、大人からあいさつをする姿を見せることも積極的に取り組んでいます。担任から声かけをした直後などは、自分からあいさつをする子どもが増えます。自然にあいさつができるようになるためにも、粘り強く取組を進めていきます。学校・保護者が一緒に取り組める内容ですので、ぜひご協力をお願いします。また、「子どもは、基礎的な学力がついてきている」の項目では、95.4%の、「子どもは学校生活を楽しんでいる」の項目では99.7%のプラス評価をしていただきました。本校の取組を多くの保護者の方に高く評価していただいていると実感しています。

この評価に甘えることなく、今後も子どもを中心に据えた教育を学校でも進めていきます。

②児童のアンケートより



児童アンケートの「ともだちやかぞくをたいせつにしている」では、97.8%のプラス評価をしています。優しさのある児童が育っていることをうれしく思います。さらに、「がっこうがたのしい」の項目では、前回調査時にプラス評価が増加していましたが、今回もさらに増加し、92.5%の児童がプラス評価をしました。多くの児童が学校に自分の居場所を見つけ、楽しく登校できていることがわかります。教職員一同で児童を豊かに育む取組を進めている効果が表れていると、うれしく思います。ただし、2.1%の児童が「そう思わない」と回答しています。その児童にもしっかりと目を向け、全ての児童が安心して通える学校を目指します。「授業がよく分かる」の項目では、前回12月の調査よりもプラス評価が6%減少しました。前回の調査では94.5%の児童がプラス評価をしていましたが、今回は88.5%になりました。児童がよりわかりやすい学習を組み立てていけるよう、今後も授業改善に取り組んでいきます。児童が学習に自信を持ち、主体的に学ぶことのできる授業の構築をしていきます。「じぶんからすすんであいさつをしている」の項目では、プラス評価が1.7%増加し、81.6%になりました。様々な場面で自分から進んであいさつをする児童が増えてきていますが、校内ではできていても、学校外に出た時にはあいさつがきちんとできていないという声も聞かれます。どんな時でも気持ちの良いあいさつができるよう、今後も継続して取組を進めていきます。児童アンケートの結果の中で最もプラス評価が低かった項目は、毎回同じ項目です。「いえですすんでどくしよをしている」の項目で、プラス評価は60.9%でした。これは、前回調査(12月)よりもさらに2.0%減少しています。一度は70%を超えた時がありましたが、まだまだ十分に本校の重点目標が定着していない結果になりました。今後も少しずつ家庭での読書習慣が定着していくよう、学校だけではなく家に帰ってから読書に親しむことができるような取組を考えていかなければなりません。今後もコミュニティ図書館という恵まれた施設を有効活用して、子どもたちに読書の機会を提供していきたいと思います。また、「こまったことがあれば、せんせいはなしたりそうだんしたりしている」の項目では、75.6%のプラス評価でした。アンケートをするたびに少しずつ数値は上昇していますが、できるだけ100%に近づくよう、子どもたちがさらに担任と相談しやすい関係性を作っていくような取組を進めていきます。今回の結果を真摯に受け止め、今後も取組を改善していきたいと考えています。

両方のアンケートの結果については教職員で共通理解を図ることで、今後も改善に努めていきたいと思えます。教職員一同、深草小の子どもたちのために力を尽くしていきますので、ご支援・ご協力をお願いします。



わたしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。